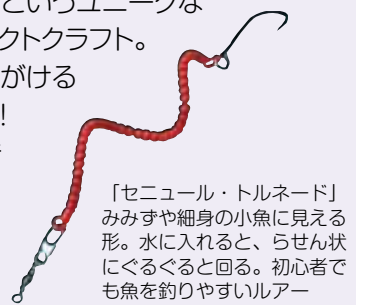




ザクトクラフト(上島)

代表 吉田修平さん

「セニョール・トルネード」というユニークな形状のルアーで知られるザクトクラフト。このルアーの製造販売を手がける事業所が実は開成町にある!ということが、ルアー釣りをする町内の釣り愛好家にはちょっとした自慢なのだとか?!



「セニョール・トルネード」
みみずや細身の小魚に見える形。水に入れると、らせん状にぐるぐると回る。初心者でも魚を釣りやすいルアー

主力商品は主婦の手で

工房のような所を想像して取材に伺ったのですが、驚いたことに事業所はごく普通の住宅。聞けば、主力商品「セニョール・トルネード」は、町内の主婦の方々により、内職で製作されているのだとか。代表の吉田さんは、前職は釣り具問屋の営業職。元々は趣味でこのルアーを製作していた方からその販売を引き継ぎ、4年前に起業。商品パッケージをリニューアルしたり、説明書を同封したりと、販売の仕方に工夫をして、一気に人気に火が付いたと言います。

吉田さんの仕事スタイル

現在は、管理釣り場で使うルアーだけでなく、マグロ釣りに使うものなど海釣り用ルアーも手掛

け、自身がプロデュースした商品を問屋に卸しているそうです。

「ものづくり、というよりは、販売や企画が専門ですね」とおっしゃる吉田さん。「釣りは好きだけれど、やはり仕事だからね」と、冷静に分析したり、研究したりするプロセスを大切にしていると言います。1つの商品を作るまでには、多くの時間・労力・資金がかかります。試作品を作り、実際に水に入れて泳がしてみ、重さや大きさなどを様々に変え微調整を繰り返します。地道な作業を繰り返して、商品ができあがっていきます。「商品のアイデアはふとしたときに浮かんでくるけれど、アイデアには詰まることもしょっちゅう」と吉田さん。自身も好きな釣りに関することが生業になってはいるものの、そこはきちんと「仕事」としてのバランス感覚を失わずに取り組んでいくのが吉田さんのスタイルかもしれません。



様々な種類のルアー

喜ぶ顔を見たい

仕事のやりがいを感じるときは?との問いに「やはり、初めて釣りをする人が(魚を)釣って帰ってくれるとき」と答えてくださいました。自分プロデュースした釣り具で「釣れた!」と喜んでいる人の顔を見るのが、仕事をするうえで、何より大きな力になるそうです。

町内にある事業所というと、7月号の特派員特集で取材させていただいた(株)明治ゴム化成や日本製紙クレシア(株)といった大きな企業を連想する方が多いかと思います。県内一小さな町に「開成町ならでは!」と言えるような小さくてもキラリと光る技術をもっている事業所はないのだろうか?そんな疑問から、今回は「開成の匠(特殊な技能や技術のある方・事業所)」を訪ねることにしました。どんな匠がいるのか?足柄上商工会からご紹介いただきました。

まちづくり情報特派員 石崎雅美

問 自治活動応援課 ☎84-0315



まちづくり情報特派員



真家の匠
真間幸雄さん
「真家は、伝統を継承する人」

(有)真間土建(下島)

取締役 真間幸雄さん



工事現場で技術継承

一般的な土木工事はもとより、曳家まで請け負う土木施工技術者。曳家のできる技術者は近隣では数少なく、その技術力はかなりのもの。町内の方からの信頼が厚く、難しい工事を任されることも。温厚な人柄だが、工事現場でみせる情熱は人一倍熱い。

技術を伝える

真間さんは、長男の「哲」と10年以上一緒に仕事をされています。「息子は、自分から進んでこの道を選んでくれた。良い仕事をしてほしいと思うので、今はフレッシュさを感じられるけれど、技術を継承していきたい」と父として、親方として、仕事にかける真間さんの熱い想いを感じました。

シツとおさまったとき。良し!うまくいった!と快感ですよ」と答えてくださいました。「土木工事は派手な仕事ではないが、手の抜けな一番大切な部分。全ての土台(基礎)になりますから、責任を感じる」と言っ真間さんにとって、仕事の何よりの励みは、お客さんからの感謝の言葉だそうです。

土木工事は全ての基礎

この仕事の醍醐味は?との問いに「曳家は、ピ

工事現場はデータより「勘」

現場の状況や条件は、毎回異なります。地盤や周囲の環境、予算面など、全てを考慮したうえで、最適な手法を考えます。最近では、パソコンで計算して、材料の質や数量を出すこともできるようですが「やはり、長年の勘が一番頼りになる」と真間さん。



曳家の工事現場

下積み時代に技術を習得

約5年間の会社勤めの後、友人に誘われて、職のアルバイトを半年。そのアルバイトがきっかけで、その後も専職として約10年間働いたそうです。「親方に付いて、色々な現場を経験する。技術を見て学び、実際にやって自分のものにしていく、それがこの業界の仕事の仕方」とおっしゃる真間さん。曳家の技術も、この期間に身に付けたそうです。今は、曳家を頼まれることは滅多にないようですが、神社などの伝統的な建築物の工事や区画整理事業などが、活躍の機会になっているようです。